

知らない世界にレッツ・農!

第3回

ヒマワリを愛する男 ～小田孝良さん～

農援リポーター・行政書士 やなだ かよこ

さて、冒頭からクイズです。山形県中山町、埼玉県桶川市、京都府向日市、宮崎県日向市の共通点をご存じでしょうか？ 答えは、いずれの自治体も「花シンボル」がヒマワリなのです。日本では50以上の市区町村がヒマワリをシンボルとしていることから、国民的に親しまれていることがわかります。

今号では、日本で昔から愛されているヒマワリを活用し、耕作放棄地問題の解決とともに、新たな産業の創造をめざす、一般社団法人林創活用協会^{*1}の代表理事小田さんのこれまでの歩みと今後の展望をご紹介します。

小田孝良さんのプロフィール



昭和50(1975)年千葉県市原市生まれ。幕張総合高校(現)卒、上海外国語大学経済貿易学部卒。三味線メーカーに入社、生産管理などを担当。

語学を活かした職種に数度転職し、環境事業に着目、2011年株式会社ストライクポイントを設立し代表取締役就任。太陽光発電保守点検事業、小型バイオマス発電導入コンサルティング事業に従事。

2022年一般社団法人林創活用協会代表理事就任、「VGEP® ヒマワリ事業」で耕作放棄地を減らしてヒマワリ農家を増やし、ヒマワリを一大産業へと育てるべく活動中。

木との出会い

小田さんのヒマワリへの情熱は、子どものころからというわけではなかったそうです。小学校から中学校まではサッカー、高校時代はバンドでドラムを少々楽しむという、星が好きな少年でした。

親のすすめもあり、高校卒業後は上海外国語大学へ留学します。中国語の知識はなく、1年目は授業もわからない状態で、卒業まで5年を費やしました。

卒業後の進路について、当時は3回生、4回生で就職活動をして内定をもらい、4月から新卒の新入社員で就職するのが一般的でした。上海住まいで日本の企業への就職活動ができなかったため、帰国後に第二新卒として就職活動を開始しました。内定をいくつかもらったなかから、三味線メーカーに就職し、

ここで木との出会いがありました。三味線の生産管理を担当したのですが、日本の伝統的な楽器でも、原材料の木材を国産で賄うことができず、当時インドや中国からの輸入に頼っていたのです。

太陽光発電からバイオマス発電へ

その後ベンチャー企業数社を転職し、ある時、取引先と共同で太陽光発電設備の実証実験を行うことになりました。このことがきっかけとなり、2011年に株式会社ストライクポイントを設立します。業務内容は太陽光発電設備の保守点検業です。当初は自然の力で発電した電力を買い取ってもらえる点から、投資目的での太陽光事業を検討する問い合わせと対応が多かったのですが、徐々に売電価格が不安定となり40円、30円と下がっていきました。一方、バイオマス発電^{*2}の売電価格は40円と安定していたため、バイオマス発電についての問い合わせが増え、問い合わせに応じる形で、バイオマス発電設備の開設コンサルティングも行うようになります。設置場所や燃料の木の相談で森林組合を訪ねることもありました。

ヒマワリとの出会い

バイオマス発電の燃料は油や木材ですが、油も輸入に依存し価格が安定せず、また、山からの木材は住宅や家具など別の有効な活用方法もあるため燃やすのはもったいないと考え、耕作放棄地に5年程度で成長、伐採できる燃料用の木を植えたかどうかと検討します。しかし、田畑に植林すると周囲に影を作るなど、作物に悪い影響を与えることもあと知ります。

そんなとき、カネコ種苗株式会社^{*3}の西澤光義さんからの「ヒマワリから油がとれるんだよ」という何気ないひと言から、ヒマワリについて検討を始めるのです。

作物としてのヒマワリの魅力は、耐旱性があることです。あっという間に成長するため、雑草に負けず、丈が1m程度になると地面はヒマワリの影となり、雑草も生えづらくなります。搾油機も大豆油用や菜種油用の搾油機が使えるため、機械のコストも抑えられます。一方、菜種油の材料の菜種は、雑草に負けやすかったり、ほかにもオリーブオイルは搾油に高額な専用の機械が必要となります。ヒマワリオイルなら生産コストも抑えられるという結論になりました。

また、ヒマワリの多用途も魅力でした。一例として、種は人間のスナックや鳥の餌、加工してバターや食用ペーストとなり、茎は加工して繊維となるなど、用途が広いのです。

避できる仕組みになっています。また、特定地域の耕作放棄地だけでなく、全国に散らばった耕作放棄地を有効活用することが可能となります。

ヒマワリ事業の今後

これら多くのヒマワリ利活用の中から、小田さんがいま特に力を入れているヒマワリ事業についてうかがいました。

・ヒマワリスプラウト

スーパーで見かけるブロッコリースプラウトのようなおなじみの食品です。欧米ではすでにヒマワリスプラウトは食卓にあがっています。現在、商品化に向けて開発中です。播種後、5日ほどで出荷できます。

・ヴィーガンレザー

ヒマワリの「合成皮革」です。ヒマワリの茎と麻とを組み合わせた植物由来100%の素材を愛知県の繊維メーカーと開発中で、製品化まであと少しです。

さいごに

誌面では紹介しきれませんでしたでしたが、小田さんはヒマワリ事業に関し、品種の分析、播種から収穫までの技術面、製造のための機械や装置等の設備面、収益・投資予測などの金銭面など、ヒマワリの有効性を知らない方でも理解を得られるように、綿密な調査とその裏付けを地道に行って、詳細な資料へとまとめられています。

地域でのイベントや企業とのタイアップ企画など、華やかなヒマワリ活動にも奔走しながら、次のステップは自らもヒマワリを植え、「播種から生育、収穫、販売というヒマワリの「一生」を一貫してサポートできる事例をもっと増やしていきたい」と言います。小田さんのヒマワリへの想いはもっと深まり、その活動は一層輝きを増していくことでしょう。

※1 一般社団法人創活用協会 <https://j-fca.or.jp/>

※2 バイオマス発電とは、バイオマス、つまり再生可能な生物由来の有機性資源（化石資源を除く）を燃料とした発電。資源エネルギー庁「事業計画策定ガイドライン（バイオマス発電）」「発電設備に関する用語」より
https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/dl/fit_2017/legal/guideline_biomass.pdf

※3 カネコ種苗株式会社 <https://www.kanekoseeds.jp/>

※4 ラーケーション:愛知県発、子供の学び（ラーニング）と、保護者の休み（パケーション）を組み合わせた、平日だからこそこできる学校外での学習活動
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/gimukyoiiku/learcation.html>



プロフィール

梁田佳世子 いちご農家での6年間の就農経験から、国産農作物と農家・農業を発展させ守りたい、と、行政書士業と、農業・農家への多方面からのアプローチを行っています。チバニアン兼業農学校第6期生、早大二文卒。趣味は旅行、ワイン、犬